

マリアン 会報

発行 ノートルダム女子大学同窓会

二十五周年を迎えて

学長 シスターメリーマイクル田代

同窓生の皆様お元気でしょうか。

この冬は気候が不順で、体が気温の急激な変化にうまく追いついていけない感じがした。私たちの人生も順風満帆に近い状態があるかと思うと急に寒波に見舞われたり、予測どおりにいかないことも間々あるのではないだろうか。

学校の歴史をふりかえって見るときもやはり同じことがいえると存じます。皆様の母校ノートルダム女子大学も多くの方々のご尽力によって、創設されて以来、さまざまな困難、障害に遭遇しながらも歳月を重ねてまいりましたが昨年めでたく創立二十五周年をむかえました。

過去から現代までにいただいた多くのお恵みに対し神に感謝を捧げ過去、現在、未来のすべての関係者と大学の発展のために神の豊かな祝福を祈って、十二月十六日京都会場第二ホールを会場として、ささやかな式典と感謝のミサ

をとり行ないました。(本来は十二月八日が創立記念日であります)

が京都会場使用について、くじ引で日時が決められてしまいます。式典では元英知大学長岸英司神父様及び同窓会会長辻美智子さんから祝辞をいただき、感謝のミサは、田中司教様、村上真理雄神父様、齊木嘉作神父様にお願いいたしました。メルオル神父様の指揮によるモーツアルトのミサ曲二長調が雰囲気を一層盛り上げた感じでした。ご来客の中に本学設置委員長故大原総一郎氏ご夫人の大原真佐子様をおむかえしたことは感慨深いことであります。会場の関係で同窓生のご招待も各回生から代表者二名に限らなければならなかったことが残念でございましたが、母校の今日の発展も同窓生の皆様のお力によるところが大きいことを痛感しあらためて御礼申し上げます。

ではこの一年間も皆さまお一人お一人の上に神の祝福と

聖母マリアのご保護が豊かにありますよう心よりお祈り申し上げます。

式典に

参列して

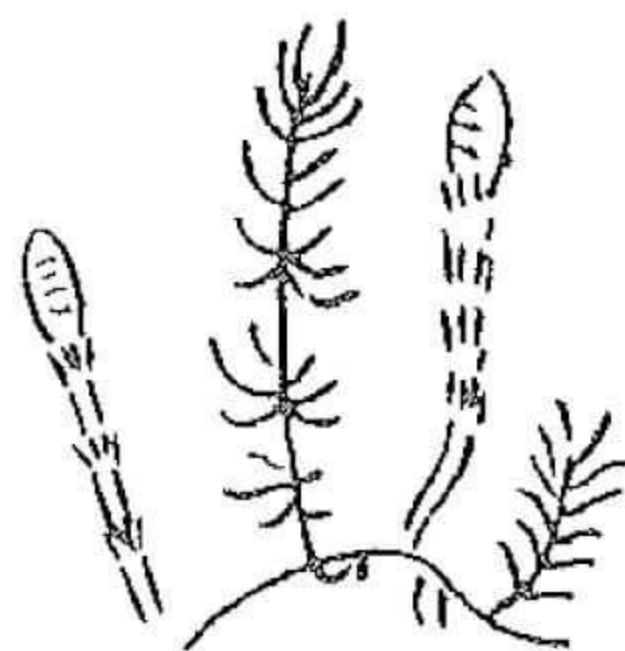
今この稿の初めに当たり、ノートルダム女子大学を卒業したことを、私は今心より誇りに思い喜びとじていることを申し述べます。

昨年十二月十六日、京都会場に於て、ノートルダム女子大学の二十五周年記念式典が、挙行せられ、同窓会代表の一員として、出席する機会を得ました。学長様は、そのご挨拶を通じて、この二十五年の歴史が、どんなに多くの人々の努力と善意で拓かれ、幾多の熱意でおし進められたかについて、話されました。そしてそれが素晴らしい校風や学舎設備として結実し、そこで

学んだ私共へ、どれほど薫陶を与えてきたかを、しみじみ考えさせられるお話でした。

「全て神の業は、ゆつくりとしかも苦しみの内に成就されます。ですからその根は強くその花は美しいのです。」と言う修道院創立者マザーメリーテレサの言葉が、荘厳な内にとり行なわれたミサ聖祭の中で、そして清冽なミサ曲の中で、どんどんふくらんでゆく思いでした。今私は、この式典に、参加させていただけたことに心から感謝いたしますと共に、我が母校のますますの発展を心から希念してやみません。ありがとうございます。

小永井宏子 (田中4)



祝 御 退 官



For ALUMNAE NEWS

Dear Graduates of Notre Dame,

As the College completes its 25th year, I am completing more than 50 years as an educator and am looking forward to a second career with new enthusiasm. There is a saying (among the middle-aged) that "life begins at forty." Now as I (well into old-age) retire from the classroom, I want to say, "life begins at seventy." My many years of teaching have offered a constant challenge to 'do better next year'. As each new year opened I could look back on the past and see where I had not succeeded so I would start each new year with something new--in course content, in method, or simply the old things with a new spirit. New faces before me always meant a new challenge: these students are learning this for the first time; I must do my best for them.

My memories of you go back to the very first class of students at NDWC., of whom so many had been my last students at Notre Dame Jogakuin. Of course, there are many among you whom I never taught (Lucky me, you may be thinking). But there are thousands of you it was my privilege to teach during my fifteen years at the College--Reading, Conversation, Composition, Literature, E.S.S. activities. I'm sure that many of the facts you learned from me have long since vanished from your memories, just as many of your names and faces have unfortunately vanished from mine. But I hope that what we have learned from each other will always remain to enrich our lives.

From you I have learned so many beautiful things--smiling co-operation with difficult assignments and unwelcome rules. . . courage in meeting failure with real determination to succeed next time. . . earnestness in making up lost classes. . . patience with my terrible mixture of 'Englese' and 'Japlish' [Vivienne-go] . . . quick forgiveness of my many mistakes, my forgetfulness, things you may have felt too severe, too exacting, maybe even unfair . . . your words and signs of gratitude--oh, so many unforgettable things you have taught me!

From me I hope you have learned values more than mere facts--the value of trying to do beautifully and well whatever you do . . . of promptness, neatness and painstaking effort in work . . . of "keeping a rule where there is a rule, of freedom where there is no law" . . . of justice and fairness to all . . . of understanding and listening to 'the other side of the story' when misunderstandings occurred . . . of seeking to learn 'why' when problems arose . . . of a faithful performance of duty and fulfilling of responsibility.

One of the most precious rewards of my long teaching career was a note a recent student wrote on a final exam paper: "Sister, I like your smile. Please, never lose it." I hope that wish comes true! When we meet again--whenever, wherever--you tell me your name and I'll give you my brightest smile! May God and Our Lady, Notre Dame, bless you always!

Sister M. Vivienne

祝御退官

三月をもちまして、シスター
ヴィヴィアンとシスタージョ
セフが御退官なさいました。
長年大学教育にご貢献下さい
まして、心からの感謝と共に
御祝を申し上げたいと存じま
す。四月からの御住所は左記
にお移りになりますので、お
便りを差し上げて下さい。

同窓会の皆様へ

修道女会 みこころ修道院
シスター・メリー・ジョセフ

シスター・セリー
昨年、の会報には、母親が、
最初の教育者であることにつ
いて書きました。今回は、「育
児」は、「育自」であること
について考えてみましょう。
卒業生の多くの方たちは、
母親の生き方が変われば、子ど
もがかわり、子どもがかわれ
ば、家庭が変わるという現実を、
体験的に、ご存知でしょう。
更に、私たちが信じ、望みた
いのは、家庭が変わることによ

って、いつか、社会や国が変
るということ。この意味
で、女性の力は大きく、かつ、
偉大にもなり得るのです。

一方、子どもがなければ、
親になれず、親になると、子
どもを育てながら、子どもに
よって、親として育てられて
いきます。まさに、「育児」と
は、「育自」ということになり
ます。私も、学生に教えては
いるものの、かえって、若者
たちから学ぶことが多い、自
分が豊かにされていくのを、
毎日のように、感じています。
私たちの心は、おそらく、
死の瞬間まで育てられ、深く、
大きく、成長するのでしょう。
それが、生きている証拠なの
かもしれない。寒い冬が過
ぎ、春のいぶきを受けて、大
自然のものが新しい芽をふき
はじめるとき、生命の神秘を感
じます。日常生活の中でも、
色々なカタチであらわれる
「芽」があります。それが、自
分の中に芽生えようと、他者
の中にあるようと、まわりの世
界から出てこようと、可能性
を信じて、希望をかけて、愛
の心で、生え出た芽を大切に
いっしょに育てたいものです。

総会へののご案内

早や、一年が過ぎ再び同窓

だこうと計画しております。

日時 五月二十四日(日)

十一時半〜三時

場所 宝ヶ池プリンスホテ

ル

(七二二一〜二二二)

ゲスト 杉本佳代子

(ノートルダム女学

院十期卒)

会費 大人 六千円

子供 千円

ベビーシッター付



名古屋からのお知らせ

シスター・メリー・セリー
ンが、名古屋近辺に在任のノ
ートルダム同窓生の為に、
と始めて下さった聖書のクラ
スも、回を重ね、はや一年が
経ちました。「学校を卒業して
以来、聖書を開くのは何年振
りかしら……」という方達も、
又ずっと聖書に親しんでこら
れた人達も、月一回のこのク

本年の担当学年より
ひとこと
一年中でいちばん美しい季
節を迎えております。
皆様お変わりなくお過ごしです
か。今年も同窓会を開く頃と
なりました。本年は、ノートル
ダム女学院を御卒業になり
シヤンソン界で御活躍の杉本
佳代子さんをお迎えすること
になりました。杉本さんは、
二児の母親でもあります。子
育てや家事のかたわらシヤン
ソンを歌い続けていらつしや
る杉本さんの美しい歌声とお
しゃべりを楽しみながら、懐
かしい人々と共に春の日の一
時をお過ごし下さい。
六期生一同

一九八七年 活動報告

五月〇文化教養クラス春期開始(四月より)。

〇総会準備・打ち合わせ

〇総会

〇マザーテレサの祝日に参加

〇マリアンスカラシップ授与

六月〇雇間のシスターと共にボランティア活動開始について話し合う。

〇役員懇親会及び同総会の反省会を開く。

七月〇ボランティア活動について話し合う。

九月〇ボランティア活動開始に向け、準備開始。

〇ボランティア活動第一回開く。(大学多用途にて二十数名参加協力)

〇文化教養クラス秋期開始

十月〇ボランティア活動第二回開く。

〇食へ歩き会開催(下鴨吉泉にて)

十一月〇大学祭参加バザーを開催(今年度よりボランティア活動で作った品々も販売)。

十二月〇創立二十五周年記念式典に役員参加

〇同窓会館建設について検討する

一月〇文化教養クラス冬期開始。

二月〇来年度新役員について検討

〇マリアン十七号編集開始。

〇ボランティア活動第三回開催

三月〇新入会員への説明会を行う。

〇来年度予算案作成。

〇マリアンスカラシップについて再検討する。

四月〇マリアン、総会案内、新役員の信任・不信任票発送

〇文化教養クラス春期開始。

役員交代

五月の総会で任期満了につき、左記の役員が交代します。

会 長 辻 美智子(磯田)
副会長 高山 敦子(和泉)

書記 小野 佳子(谷出)

会計監査 角野 理美(小島)

尚、本年度より、広報、ボランティアの役職を新たに設ける事になりました。新役員候補者は次の方達です。他に御推薦がなければ同封の葉書の信任、不信任のどちらかに〇をつけて下さい。

新役員候補者

会 長 磯野 高子(川田)

副会長 塩田 久江(渡辺)

会 計 高木 里美(小坂)

書 記 西村 晶子(西村)

〃 林寺真智子(浮田)

〃 池淵 律子(石原)

〃 加藤 博美(高田)

〃 廣 報 林 満智子(寺田)

会計監査 高山 敦子(和泉)

ボランティア 小野 佳子(谷出)

同窓生の皆様に感謝

会長 辻 美智子
(磯田一期生)

未熟な私が、同窓会長とい

う大役を無事終える事が出来ました。その間、同窓生の皆様には、多大なる御支援と御協力を頂き本当に有り難とう御座居ました。同窓会のお仕事をお手伝いはじめて、いつも感じることは一人一人の会員の皆様の共通点で、とても優しい女性であるという事でした。そのお陰で私も楽しく二年間来られたのだと感謝しております。今後増々会員数も多くなりますが、同窓会発展の為、相変りませぬ御協力をお願いいたします。

ボランティア活動へのお願い

人長久巳子(東7)

同窓会も創立二十数年を経た、ほっと一息といった方も多い今ごろと存じますが、もう一度古巣に帰り、先輩も後輩も楽しく無理なく出来るボランティア活動に参加される方はおられません。昨秋より、学年委員会を中心として、何かを始めたいと、ベテランの方の指導でクリスマスなどの小物を制作し、大



学祭や東京での同窓会で販売いたしました。会場の出席者からはお子様の手土産に喜ばれ、また制作に参加した方々からは色々な手作りが習得できたこと、双方から随分喜んでいただきました。収益も一応あがり、本年から正規の同窓会活動として認められることになりました。まだまだ知力、能力ともに乏しい状態ですので、皆様の気軽な参加によって、もっと多方面への活動ができればと願っております。興味のある方は、ぜひ一度お出ましく下さい。

卒業生の皆様へ!!

ノートルダム女子大学
〒606 京都市左京区下鴨南野々神町1
TEL(075)781-1173



インドへ友愛の手を!
インドの貧しい子供達を助ける為に皆様の暖かいご援助をお待ちしております。

祝御入会

本年度は、英語英文学科二
四四名、生活文化学科八五名
が三月十一日に御卒業になり、
同時に第二十三期の同窓会
員となりました。御入会を
歓迎いたします。
これで同窓会員数は、四九
九五名となりました。
本年度二十三期生の学年委
員は次の方をお願いします。

英語英文学科
中島 千明
宮城 美和
生活文化学科
坂田 佳由

おねがい

毎年、十一月三日の大学祭
に参加しております同窓会
のバザーは年々好評になっ
てまいりました。それも皆
様の御寄贈のおかげでござ
います。本年度も同様、御
寄贈して頂く品物がありま
した。同窓会宛ご郵送下さ
い。(書物、日用品・衣類何
れの商品でも結構です。御
協力をお願いいたします。)

◎住所・氏名の御変更は必ず
葉書に旧姓と現姓、卒業年
度、TELをノートルダム
女子大学同窓会宛にお知
らせ下さい。

同窓会会館について

長年、大学の図書館の地下の
お部屋を、大学側の御好意で使
用させて頂いておりますが、大
学も日々発展し、校舎の数も沢
山必要になって、同窓会室も
これから先、長年お借りして
おくことは不可能になって参
りました。同窓会の会員も、
毎年多くなり、又土地、建物
も高騰して来ました。同窓会
発足当時、資金が出来てから
との考えでしたが、それでは、
永遠に実現しない時代になり
ました。故に今年度よりまず
は、小さな物件から購入し、
年月が経って、段々大きな同
窓会館に代っていく様にしてい
ゆきたいと存じます。もし会
員の皆様のよいご意見が御座
りましたら、ご一報下さい。
本部の役員一同も努力しその
意志を発展させようと思いま
すので、どうぞよろしく御理
解をお願いします。

関東支部会だより

会員の皆様には、それぞれ
のお立場で御活躍のことと思
います。

昨年の関東支部同窓会は、
十一月十六日、緑豊かな「都
ホテル東京」で開かれました。
京都からシスターセリオン、
シスターテレサマーガレット、
シスターメリーグレース御出
席のもと、本部の西村様、小
野様もかけつけて下さり、関
西弁のとびかう楽しいひとと
きを過ごしました。そして又、
我国を代表するチャーター奏者、
内藤敏子さんのすばらしい演
奏にうっとりしたひとときで
もありました。

本年の同窓会は十一月八日
を予定しておりますが今から
カレンダーに印をつけておい
て、ぜひ御出席下さい。

今年度の役員は次のとおり
です。

支部長 平井 正美 五期生
(旧姓 植村)
副支部長 岡嶋三知子 六期生
(旧姓 栗津)
会 計 西田 英子 五期生
(旧姓 佐々木)

マリアン

スカラシップ

六十一年度のマリアンスカ
ラシップ受賞者は、左記の優

秀な三名に決定いたしました。
各々に、二十万円を同窓会よ
り授与いたしました。

○英語英文学科

日比野美穂

丹波 薫

○生活文化学科

坂田 佳由

* * *

マリアンスカラシップは、
本年度より左記の内容を、大
学側と検討中です。

この奨学金は、学業成績人
物ともに優秀な学生で、修学
が困難になったものに同窓会
から授業料の一部を貸与され
るものである。

おくやみ

十三期生の奈良田順子
様、二十一期生の今北敦
美様が、ご病気のため、
御急逝なさいました。
御冥福をお祈りいたし
ます。

編集後記

今年度もマリアン十七号を
皆様のお手元に発送する事が
出来幸わせです。今後共、皆
様のご指導とご協力をお願い
します。